

臆病者たちの暴力が生む格差と貧困

浜 矩子

女性はずいぶん格差の犠牲となり、貧困に追い込まれなくてはならないのか。根底にあるのは、強き者への恐れなのだと思う。いつの世においても、その時々主流を形成する集団は、その状況を変える力をもっている存在を恐れる。自分たちにとって脅威となる可能性を秘めた存在を、何とか、片隅に追いやり、その力を封じ込めようとする。誰も、自分にとって脅威とならない者たちを封じ込めようとはしない。女性たちには、しなやかさがある。包容力がある。賢さがある。美しさがある。彼女たちの力は無限大だ。だからこそ、彼女たちは差別される。その存在感が輝き出でないように、後景に退くことを強いられる。

全ての格差と貧困の背景には、自分たちの座を脅かされることに怯える者たちのひらみがある。差別は、臆病者たちの暴力だ。したたかな柔軟性と抗い難い底力をもつ女性たちは、実にしばしば、この臆病な凶暴性の集中砲火を浴びる。生来の強靱さがあるから、彼女たちは臆病者たちに屈しない。だから、余計に圧力を被る。

最も警戒すべきことは、格差と貧困に追い詰められていく中で、女性たちが自らの強さを忘れることだ。希望を失うことだ。その知性が摘み取られていくことだ。格差と貧困に打ちひしがれて、彼女たちの持前の洞察力が曇ってしまうことである。この落とし穴を回避するすべはあるか。断じてある。間違いなくある。決め手となるのは、連帯だ。女性たちがお互いを孤立させないこと。仲間がいて、同志がある。そのことが、いかなる格差もいかなる貧困も吹き飛ばす。誰も一人きりでは生きていけないが、誰も、一人きりになりさえしなければ生きていける。そこに希望がある。そして、女性たちは連帯が実に上手だ。支え合いの呼吸を実によく心得ている。だから、大丈夫！手を差し伸べ合う女性たち、お互いに耳を傾け合う女性たちは無敵だ。



PROFILE

はまのりこ：同志社大学大学院ビジネス研究科教授。エコノミスト。一橋大学経済学部卒業後、(株)三菱総合研究所入社。1990～1998年、初代ロンドン駐在員事務所長。帰国後、同社経済調査部長、政策経済研究センター主席研究員等を経て、2002年より現職。『もうエコノミストに騙されないために一紫炎のMBA講義録』（毎日新聞社、2015）、『国民なき経済成長—脱・アポノミクスのすすめ』（KADOKAWA、2015）など著書多数。